

5月

今月のお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、事業を変更する場合があります。ご了承ください。

ゆとり教室

日時：5月6日（金）11時00分～
場所：上米積 老人憩いの家
法話：阪本 仁さん
「一緒に生命の大切さを考えましょう」

ペン習字(いきいき)教室

日時：5月16日（月）13時30分～
内容：「絵手紙」「実用的な書」など
準備：筆ペン
～いつでも、どこでも、誰でも、楽しめること～

さわやかサロン

日時：5月19日（木）13時30分～
内容：みんなで手わやく

みんなの楽級

日時：5月29日（日）11時00分～
内容：地域の伝統文化を学ぶ（ボテ茶）
持ち物：エフロン、三角巾、マスク
参加費：300円
申込締切：5/23（月）
さわやか人権文化センターまで

手話教室

6月頃より開催予定です（日程調整中）

事業は、感染症対策を充分行ったうえで開催いたします。

2022年度 倉吉市人権教育研究会会員募集中

- 会費 年間 1,000円
- 会員になられた方には、入会特典があります。
- 申し込み方法 会費を添えて下記へお申し込みください。※随時受け付けています。
- 申し込み先
 - 倉吉市人権教育研究会事務局（人権政策課内）Tel 22-8130 / fax 23-9100
 - 倉吉市人権文化センター Tel 22-4768
 - さわやか人権文化センター Tel 28-2017
 - あたごふれあい人権文化センター Tel 28-5440
 - やまびこ人権文化センター Tel 28-4265
 - はばたき人権文化センター Tel 22-0232

困りごとはありませんか？ 人権が侵害されていませんか？

悩みごと・生活に困っていることがありましたら、どんなことでも、1人で抱えこまずにご相談ください。

倉吉市役所人権政策課
さわやか人権文化センター

差別落書きや差別発言などに遭遇しましたら、倉吉市人権政策課もしくは人権文化センターにご相談ください。

電話 22-8130
電話 28-2017

さわやか人権文化センターだより

さわやか

2022年5月1日発行 No.331

〔発行所〕さわやか人権文化センター

〔所在地〕〒682-0602

倉吉市上米積 1074-1

〔電話兼ファックス〕0858-28-2017

〔メールアドレス〕sawayaka@ncn-k.net

センターだより「さわやか」に関するご意見・ご要望をお寄せください。

「みんなの楽級」が始まりました！



4月10日（日）、今年度の「みんなの学級」開級式を開催し、その後、第1回目の取り組み事業として、「いちご大福づくり」を行いました。

地域の方の栽培されているいちごを使い、甘くて美味しいいちご大福づくりを楽しみました。旬の甘いいちごを餡で包み、もち粉で作った求肥で包み込み完成させた「いちご大福」。「食べるのが楽しみです。」と参加者の皆さんは笑顔で話をされていました。

5月のみんなの楽級では…

「ボテ茶」を行います！

ボテ茶をとおして地域の伝統文化を学びます。



（お茶の花）

ボテ茶は、番茶に乾燥させた茶の花を加えて煮だし、ころあいを計らって、煮出した茶湯を茶碗に注ぎ、湿った茶せん（穂先の長いもの）の穂先に少量の塩をつけ、茶せんを茶碗のふちにあって、ぼてぼてと左右にふり、泡をふくくらとたてます。

昔の生活は今の生活に比べたら大変でしたが、そのぶん皆が協力し、支え合って心豊かに生きてきました。冬の間は外で仕事をする事ができず、秋に取り入れたわらを使って、わらじやむしろ、かます、そうり等のわら細工に励みました。そして、昼の休憩には、いつもボテ茶がありました。

厳しい差別を受けながらもボテ茶をとおして、子育て、仕事、生活、結婚などを話し合い、お互いを励ましあい、助け合う温かい心を育んでいたことがうかがえます。

このボテ茶は他の村にも伝わることは伝わったのですが、だんだんと忘れられて現在、倉吉では一か所のみ残っています。そして今でもその地域では伝承文化として受けつがれています。

地域で受け継がれている味を味わってみませんか？

日時：5月29日（日）11時00分～ 持ち物：エフロン・三角巾・マスク

事業は、感染症対策を充分行ったうえで開催いたします。

〔令和4年度児童福祉週間標語〕

見つけたよ 広がる未来とつかむ夢

たなか ごう

(田中 豪さん 15歳 愛知県)

「児童福祉週間」は、国民の間に児童福祉の理念や制度の周知を図り、国民の児童福祉に対する理解と認識を深めることをねらいとして、昭和 22 年より、毎年、5 月 5 日の「こどもの日」を中心に、全国的に実施されてきたものです。

児童福祉週間では、次の 1 から 7 の内容を中心とした運動が行われます。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 児童福祉の理念の普及 | 5 母と子の健康づくりの推進 |
| 2 家庭における親子のふれあい促進 | 6 多様化する保育需要等への対応 |
| 3 地域における児童健全育成活動の促進 | 7 障害のある子ども等に対する理解の促進 |
| 4 児童虐待への適切な対応 | |

子どもたちが健やかに育つこと、これは社会の宝である子どもたちに対する国民全体の願いであり、すべての子どもが家庭や地域において、豊かな愛情に包まれながら、夢と希望をもって、未来の担い手として、個性豊かに、たくましく育っていきけるような環境・社会を作っていくことが重要です。



< 児童福祉週間標語入選作品 (10 作品) >

☆やさしさが 灯すぬくもり 心のあかり	(安田 やすだ 彩乃さん)	9 歳	山口県)
☆おもいやる ころろひろげて むかえるみらい	(山野 やまの だいすけ 大輔さん)	46 歳	大阪府)
☆一人じゃない のばしてみよう 心の手	(保谷 ほうや えみ 恵美さん)	56 歳	東京都)
☆いつだって 君の味方さ さあ一步	(高野 たかの りさ 理沙さん)	22 歳	群馬県)
☆ありがとういつもちかくのやさしいこえ	(仲田 なかた やよい 弥生さん)	15 歳	千葉県)
☆ゆめいっぱい ぼくがわたしが しゅじんこう	(江村 えむら としのぶ 聡信さん)	42 歳	埼玉県)
☆ほっとする そばにいと あたたかい	(竹口 たけぐち ほのか 穂乃佳さん)	6 歳	愛知県)
☆さあトライ えがおがぼくらの ユニフォーム	(古川 ふるかわ ゆうと 裕大さん)	7 歳	栃木県)
☆やさしさが 笑顔たくさん つないでる	(橋本 はしもと ちゆり 知侑璃さん)	11 歳	滋賀県)
☆わくわくの 楽しいゆめへ とびだそう	(越後 えちご ななみ 七海さん)	9 歳	京都府)

自殺者数なお 2 万人超

増える女性の自殺 コロナ禍のなか

2021 年の自殺者は 2 万 830 人（警察庁統計）で 2 年ぶりの減少でした。自殺者数は 2010 年から減少していましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大した 2020 年は、前年から 912 人増加しています。

男女別では、男性が 1 万 3815 人（前年比 240 人減）、女性が 7015 人（同 11 人減）です。男性は 12 年連続で減少でしたが、女性は 2 年ぶりに減って 7015 人となりましたが、コロナ禍前の 19 年より 924 人多く、子どもも増加しており高止まりがみられます。コロナ禍による生活環境への影響が続いている可能性もあり、依然深刻な状況であることに変わりはありません。2020 年に過去最多となった小中高生の自殺は、暫定値で 40 人減の 460 人でした。

鳥取県は、2021 年は 90 人（前年比 5 人増）で、男性 62 人、女性 28 人でした。

自殺の原因・動機

自殺の多くは多様かつ複合的な原因および背景を有しています。2020 年の女性の自殺について、原因・動機を警察庁統計で見ると、うつ病などの「健康問題」や親子・夫婦間不和などの「家庭問題」が前年比で増加傾向となっています。2022 年は家庭問題が増加し、（前年比 42 人増）の 1216 人。そのうち、項目別では「**家族の将来悲観**」が（同 42 人増）、「**介護・看病疲れ**」が（同 34 人増）となっています。

収束見えないコロナ禍で起こっていること

コロナ禍の影響はそれだけではありません。働く女性はパートやアルバイト、派遣社員など非正規が多く、コロナ禍による景気悪化で売上の減少、休業を理由に給料を減らされたり、解雇・雇い止めに遭ったりしています。



また、仕事を自宅で行うテレワークが進んでいますが、在宅で仕事する女性や主婦は、家族が感染を恐れて家にこもりがちになるため、家事や子育て、介護の負担が増し、ドメスティックバイオレンス（DV）のリスクにもさらされます。特にシングルマザーは困窮状態から抜け出すには厳しい現状があります。

現在も、各地の相談窓口には「眠れない」「死にたい」などと悲痛な声が後を絶たちません。

変わらぬ性別役割意識 コロナ禍で浮き彫り

性別にとらわれることなく一人ひとりの人権を大切にする男女共同参画社会を目指す、鳥取県男女共同参画センター「よりん彩」の行う相談業務では 2020 年 3 月以降、新型コロナウイルスに関する相談が寄せられ始めた。コロナ禍にあって、夫婦の家事分担などの固定的な性別役割の分担意識が変わっていないことが改めて浮き彫りになっている。

2019 年度は 1990 件の相談があり、内容は多い順に、こころ▽家族・親族▽夫婦関係。コロナに関する相談は、県内の陽性者 1 例目が出た 2020 年 4 月は 168 件のうち 25 件と一挙に増えた。コロナへの不安、ストレス、体調不良の他に、「子育てに夫は積極的でなく、保育園が休みになり子育てを抱え込んでいる」「子育てが苦痛に感じるが、夫は気持ちを分かってくれない」など、夫婦・家族にかかわる問題も目立ち、共同参画の意識が変わっていないことがうかがえる。

夫婦の家事分担やコミュニケーションなどの意識があまり変わっていないことが、コロナ相談でも表面化している。

（2020 年 11 月 5 日付新聞記事より）